

議事録 概要

第5回 市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～

テーマ：建て替えがせまる、宝塚市立病院の未来について

日時：令和7年8月1日（金） 午後2時～午後4時

場所：中央公民館

参加者：48名

市出席者：森市長、企画経営部市立病院経営改革担当－羽田部長、君田次長、黒木課長
市立病院経営統括部 檜本次長

《市長のテーマ説明》

1 はじめに

- ・今回のテーマは「市立病院とその周辺機能のあり方」。
- ・医師である立場から、医療・福祉に深い関心がある。

2 宝塚市立病院の現状と課題

- ・築41年の老朽施設で、狭く機能的に限界がある。
- ・救急医療やがん治療に力を入れており、24時間365日の救急体制、がん診療拠点としても評価されている。
- ・市立伊丹病院との連携により、出産は伊丹側が担う体制。
- ・赤字経営の課題があったが、近年改善傾向。

3 医療・福祉・介護・保健の連携の必要性

- ・高齢化社会において、医療・介護・保健・福祉の連携が必須。
- ・これまで制度上分断されていたが、住民にとっては一体的に扱うべき領域。
- ・予防と治療の連携、集団予防から個別予防へのシフトが求められている。

4 周辺施設との連携

- ・ステップハウス
先駆的な介護施設。老朽化も進み、今後の活用と医療との連携が課題。
- ・健康センター
主に市の健診事業を担うが、より医療との連携や予防医療を意識した再編が必要。
- ・子ども発達支援センター
障害^{しょうがい}や発達に課題のある子どもを支援する重要施設。療育・医療・教育の連携について検討中。
- ・国民健康保険診療所
医療過疎地域における重要な診療所。歯科医療や住民との関係性も深く、遠隔診療の活用を視野に入れている。

5 市立病院の建て替え計画

- ・現在地での建て替えを基本方針とし、新病院は第一駐車場の敷地に建設予定。
- ・完成後に既存病棟を段階的に解体又は活用。
- ・病院は24時間体制であるため、改修しながらの運用は難しい。
- ・一部の新しい棟（がんセンターなど）は活用継続を想定。

6 病院経営の状況

- ・令和6年度の決算見込み（正式発表は市議会の審議を経た秋予定）。
- ・総収益は約135億円で総支出は約137億円。
- ・医療費の多くは人件費が占めるが、日本全体では先進国の中でも低水準。
- ・近隣の市立病院と比較した場合、宝塚市立病院の経営状況は悪くはない。

7 今後の進め方

- ・市民・専門家・関係者を交えた懇話会を設置し、方向性を検討。
- ・物価高騰の影響もあり、早期着工・効率的な建設が求められる。
- ・単なる病院建設ではなく、医療・保健・福祉・介護の一体的なシステム構築を目指す。

8 まとめ

- ・宝塚市の医療・福祉体制は、他市に誇れる部分が多い。
- ・今後は施設の老朽化に対応しつつ、予防から治療までを見据えた体制づくりを進める。
- ・市民の意見を取り入れながら、段階的かつ現実的に病院整備と連携強化を進めていきたい。

《対話》

1 参加者【緩和病棟について】

- ・家族が緩和ケア病棟でお世話になり、安らかな最期を迎えたことに感謝。
- ・看護師から、新病院で緩和ケア病棟がなくなる可能性があると聞いた。緩和ケア病棟が減る理由は利益面の問題と推測。緩和ケア病棟をどこかに残してほしい、緩和ケアの連携を強化してほしい。

➡ 市長

- ・緩和ケア病棟の必要性について多くの意見が寄せられている。
- ・自身も関心と知見があり、必要性を理解。
- ・在宅ケアは進んでいるが、入院が必要なケースも想定している。今後、市民の声を踏まえ慎重に判断する方針。

2 参加者【新病院の科目数、完成までの期間等について】

- ・新しい病院の土地（第一駐車場）に関して、図面を見ると一部の科目が無くなるのではないかと心配。
- ・駐車場の状態に懸念があり、病院の利用が不便だと感じている。
- ・新しい病院の建設が完了するまでの期間に不安を感じている。
- ・体調や家族の介護・支援が大変で、医療・福祉の充実を希望。

➡ 市長

- ・病院の科目数はほとんど変わらないが、病床数は減る可能性あり。
- ・病院の新設について、最善を尽くして、新しい病院に向けて検討している。
- ・着工時期はまだ決定していないが、できるだけ早く進めたい。
- ・病院建設の期間は、設計から工事まで約6～7年かかる見込み。

➡ 担当職員

- ・新病院建設の期間: 設計には2～3年、工事に3年ほどかかり、完成まで6～7年を見込んでいる。

3 参加者【建設スケジュール、運営について】

- ・病院の建設計画や開始時期について詳細がわからない。新病院建設のスケジュールと開始時期を確認したい。
- ・新病院での治療に影響がないよう、現病院と連携して運営してほしい。

➡ 担当職員

- ・工事は令和10年から11年に開始予定で、完成は令和13年から14年を見込んでいる。

➡ 市長

- ・現病院の病床数は、近隣市の影響や人口減少を考慮し、減少する可能性がある。
- ・新病院建設中も現病院は運営を続け、利用者への影響が最小限になるよう努める。
- ・現病院の建設に伴い、多少の不便をかけるかもしれないが、引き続き運営する。
- ・250億円の寄付に加え、4億円の寄付を受け、最新のロボット医療機器を導入予定。ロボット機器の導入により、がん治療において体の負担が軽減され、より質の高い手術が可能となる。

4 参加者【工事に係る近隣への影響、説明について】

- ・市立病院建設の周辺に住んでいるが、大規模な工事や重機の使用が地盤に与える影響が気になる。
- ・震災後、土地の動きや大きな車両の使用が増えたことに懸念を抱いており、建設中の地盤への影響について説明を受けたい。
- ・具体的に地盤への影響がどれほどあるのか、今後のために詳細な情報を知りたい。

➡ 市長

- ・市が行う事業であり、建設会社任せにするのではなく、市として説明責任を果たす。
- ・近隣住民にできるだけ迷惑をかけないように工事の方法を工夫しており、工事車両を住宅から離れた場所に配置するなどの対策を考慮中。
- ・今後、本格的な計画が進んだ際には、近隣住民に詳細な説明を行う予定。

5 参加者【長期的な施設と病院名について】

- ・新しい病院は2100年を見越した長期的な施設を目指してほしい。
- ・病院は市民とのつながりを大切にし、市民のためのコンセプトに基づいて建設されるべき。
- ・病気を治すだけでなく、健康を推進する施設としての位置付けを求め、健康と病気の概念を両立させる形で新しい病院を作してほしい、また、病院の名前もそのような名前にしてほしい。
- ・万博などの健康に関する未来のビジョンも参考にし、未来に向けた「森プロジェクト」を提案。

➡ 市長

- ・2100年を目指すのが、日本は地震が多いため、長期的な建物の耐久性には限界がある可能性がある。
- ・新しい技術や耐震性を考慮し、過信しないようにしつつも、提案されたコンセプトを考慮し、病院の名前や機能についてディスカッションを重ねたい。
- ・自分の過去の経験も参考にし、病院名や施設設計に関しても柔軟に対応したい。

6 参加者【休憩場所、交通アクセスについて】

- ・膝が悪く、車椅子を使用して病院に通っている。検査が多いため、病院内で休憩できる場所が必要。横になる場所を構造に取り入れてほしい。
- ・病院への交通手段について、バスやタクシー、マイクロバスなどの選択肢を増やしてほしい。現在のバスやタクシー、マイクロバスの交通手段に対して、駅からのアクセスを便利にしてほしい。

➡ 市長

- ・意見に感謝し、申し訳ないと感じている。車椅子利用者の休憩場所は隠れた場所にあるかもしれないが、スタッフに声をかければ案内できる可能性がある。
- ・検査の負担を軽減し、休憩できる場所を考慮したい。
- ・交通手段について、ゼロから再考しており、新たな構想を検討中。

7 参加者【建設場所、市役所内の連携について】

- ・市長の説明を受けて、宝塚市立病院が他市町村の病院と比べて優れた収益を上げていることを評価。

- ・クリーンセンターの改修と市立病院の改修が同時期に行われることに懸念。また、クリーンセンターの場所に市立病院を建設することもできたはず。
- ・自分はクリーンセンターを西谷に移転し、その跡地を有効活用する案に賛成し、その構想を放棄したことを残念に思っている。
- ・市役所の行政が横のつながりを強化し、ランドデザインの構想を市全体で考えるように提案。

➡ 市長

- ・これまでの市長たちの考えや経緯を参考にしている。
- ・市役所内での横のつながりを強化する取り組みをすでに始めており、今後も連携を深めていく考え。
- ・ゴミの焼却場や上下水道など、今後20年を見据えた連携が重要と考えている。
- ・市役所内の要望全体を把握しており、今後はそれに基づき戦略を立て、行政の運営を進めていきたい。

8 参加者【公立病院としての存続と公共交通について】

- ・箕面市立病院の運営主体が変更になってしまった。「日本一優しい病院」を掲げていた理念が消えてしまい非常に残念。宝塚市立病院については、地道に、着実に、公立病院として存続させてほしい。
- ・箕面市の「ゆずるバス（循環バス）」のような、市内の拠点を結ぶ公共交通ルートの整備を。

➡ 市長

- ・公立病院はできる限り「公的な役割」を維持しながら運営していきたい。ただし、経営面では民間の知見・協力が必要になる場面もあるため、バランスをとりながら運営方針を検討中。
- ・循環バスについては、市とバス会社との間で交渉中だが、運転手不足など課題が多い状況。公共交通の改善は市民の要望として真摯に受け止め、今後の施策に反映していきたい。

9 参加者【病床数の決定時期、建設時期について】

- ・病床数が決まっていない中で病院建設は難しい。病床数はいつ決まるのか？
- ・救急と中間病床の連携について懸念。
- ・建設予定が遅れる可能性について、具体的な時期を尋ねる。

➡ 市長

- ・秋に懇話会を開き、市民と専門家の意見を反映し、今年度内に決定予定。
- ・急性期病院とは別に中間病床を設ける予定。
- ・100年先は予測困難だが、短期間での医療提供が重要になり、柔軟に対応する必要がある。

る。

➔ 担当職員

- ・工事は令和 10 年から 11 年に開始予定で、完成は令和 13 年から 14 年を見込んでいる。

10 参加者【緩和ケア病棟、包括支援など寄り添う病院について】

- ・緩和ケア病棟の現状として、患者の滞在日数が短くなり、ボランティアとしての関わりが難しくなっている。だが、アロマケアなど患者に寄り添った取り組みは非常に効果があり、継続してほしい。
- ・川西の病院の例として、民間的要素を取り入れつつも、公的役割も果たしている。包括支援のような役割を担うスタッフが退院支援に貢献している。
- ・急性期と非急性期を明確に分けること、独居高齢者や認知症対応の重要性、柔軟で人に寄り添う病院のあり方を希望。

➔ 市長

- ・「終末期ケア」だけではなく、もっと幅広い患者支援の場として考えている。非常に大事な視点と認識。
- ・中間的な医療・介護の場（地域包括ケア）や、民間施設との連携も視野に入れている。
- ・市立病院内の「患者サポートセンター」では、入院前から退院後までソーシャルワーカー等が支援しており、市役所の福祉部門とも密に連携中。より安心して利用できる病院づくりを目指す。

11 参加者【人間ドックについて】

- ・市立病院では人間ドックを行っていないと案内されたため、外部で受診し続けている。
- ・外部の人間ドックでは、継続的な検査記録が得られ、早期発見や病気の予防に役立っている。特に内視鏡（胃カメラ）などの検査が重要であり、市立病院の健診にもぜひ加えてほしい。

➔ 市長

- ・現在の健康診断制度は、国の基本健診に少しオプションを加えた程度にとどまっており、確かに十分とは言えない部分もある。
- ・内視鏡など専門的検査の必要性は強く認識しており、内視鏡センターの医師と連携して、市立病院でも人間ドック的な検査体制を整えられないか検討中。

12 参加者【精神科について】

- ・知的障害を持つ人々にとって、精神科や心療内科の診療が必要。
- ・現在、週に 1 回精神科の先生が来ていることは聞いているが、精神的な支援がさらに必要な方が遠くまで通院している現状。今後、地域で精神科の支援体制を強化してほしい。

➡ 市長

- ・現在、精神科の先生が定期的に診療を行っており、心療内科の専門的な支援は行われているが、精神科の支援がさらに必要だというご意見には共感しており、地域での支援強化が重要だと認識している。
- ・完全に全ての診療を網羅することは難しいが、引き続き検討していきたい。

13 参加者【建て替え費用について】

- ・病院の建て替えにかかる費用について、市の財政が心配。
- ・医療技術の維持も必要だが、限られた財源の中で費用節約も必要では？
- ・建て替えの時期や、国や県からの補助金・助成金はあるのか？

➡ 市長

- ・ご指摘の通り「お金がなければ何もできない」という意識は共有している。
- ・国や県からの支援として、災害拠点病院の指定などでの補助金や寄付金の活用を予定しているが、それでも全額はまかなえないため、一部は借入（公的ローン）で対応する予定。
- ・建物は必要最小限で、豪華にしない。将来の世代に借金を残さないよう配慮した計画にする。

14 参加者【緩和ケア病棟について】

- ・知人が回復の見込みがほとんどない中で、受け入れ病院が見つからず苦しんだ。宝塚市立病院に緩和ケア病棟を希望。

➡ 市長

- ・緩和ケアの概念は近年変わり、在宅医療の体制も進んでいる。
- ・病院での受け入れについては、具体的な事情がわからないため、詳細には答えられないが、緩和ケア病棟の維持は重要と認識。今後、地域のニーズを踏まえて、現実的に緩和ケアの体制を検討していく方針。

15 参加者【安心できる病院について】

- ・しっかりと経営的にも災害面でも安心できる病院を作ってほしい。病院の存続や耐震・災害対応力は？

➡ 市長

- ・宝塚市立病院は「災害拠点病院」に指定されており、災害に強い病院づくりが前提になっている。
- ・南海トラフ地震などの大規模災害を想定して、病院の立地や設計段階でのシミュレーションも行っている。
- ・南海トラフ地震発生時では、宝塚市は被災地というよりも、西日本全体を支援する拠点

としての役割が想定されている。

- ・今後も自衛隊阪神病院や周辺の災害医療体制との連携強化を進め、経営面も含めて、安心して利用できる病院の整備に取り組んでいく。

16 参加者【効率的な運営、特色ある病院について】

- ・市立病院の経営負担が大きい。将来の人口減少を考慮し、病院の効率的な運営が必要。
- ・他の地域でも病院の統廃合が進む中、少なくとも一つの病院は残してほしい。
- ・特色ある病院にするため、特化した分野（例：心臓病、がん治療）での強化が必要。

➡ 市長

- ・人口減少でも医療需要は増加する可能性があるため、病院のあり方を見直す必要がある。
- ・基本的な医療機能（一般的な病気の入院、救急対応）を担いつつ、特にがん治療が特色となる病院運営を進める。
- ・兵庫医大と協力しながらも、独自に優れた医療体制を築く方針。